

経済産業省 令和5年度「未踏的な地方の若手人材発掘育成支援事業補助金(AKATSUKIプロジェクト)」助成事業

山口未来変革デジタル人材発掘・育成プログラム キックオフイベント 事業説明

＜ねらい・目的＞

山口県における未来変革デジタル人材の育成
育成と活躍支援を軸とした県内ネットワークを構築する！

2024.09.07

本プログラムの背景

- IPA未踏プロジェクトの地方版立ち上げ
- 山口の地域人材をデジタル・クリエイティブ人材として発掘と育成
- 山口大学からの応募プログラムが採択して2024年度から開始

【プログラム実施】

- 課題発見などの最上流から、解決法の試作検証まで、ひとつおりをこなせるデジタル・クリエイティブ人材(未来変革デジタル人材と呼称)の発掘と育成に取り組む
- このような人材の活躍と活用を支援する県内の産官学連携のネットワーク構築に取り組む

未来変革デジタル人材の育成

「未来変革デジタル人材」とは

- 何を作るかを自分で考えて、開発・制作を実施できる。
- 開発・制作したものを説明や発表できる。
- デモや実験をしながら、適応的に改良をつづけられる。

→ プロトタイプ制作やデモを通じて、社会やユーザーと対話しながら、ICT開発を実施して、自律的に課題解決に取り組むことができる人材
(＝社会を変える創造力と行動力を持つ人材)

Webページ:

<https://yamaguchi-henkaku.jp/>

<https://yamaguchi-henkaku.jp/supporters/introduction/>

学生有志たちによる紹介 Webページも立ち上がっています！

プログラム内容について

プロトタイプ制作やデモを実践するハッカソン(5ヶ月)を実施

- テーマ・目標・アプローチは参加者が自由に設定
- 「作りたいもの」「解決したい課題」をテーマにして制作活動を実施
- アイデアを形にする技術力や、作ったものを見せる表現力、レビューを受けながら探索的に価値創造や課題解決につなげる方法を習得

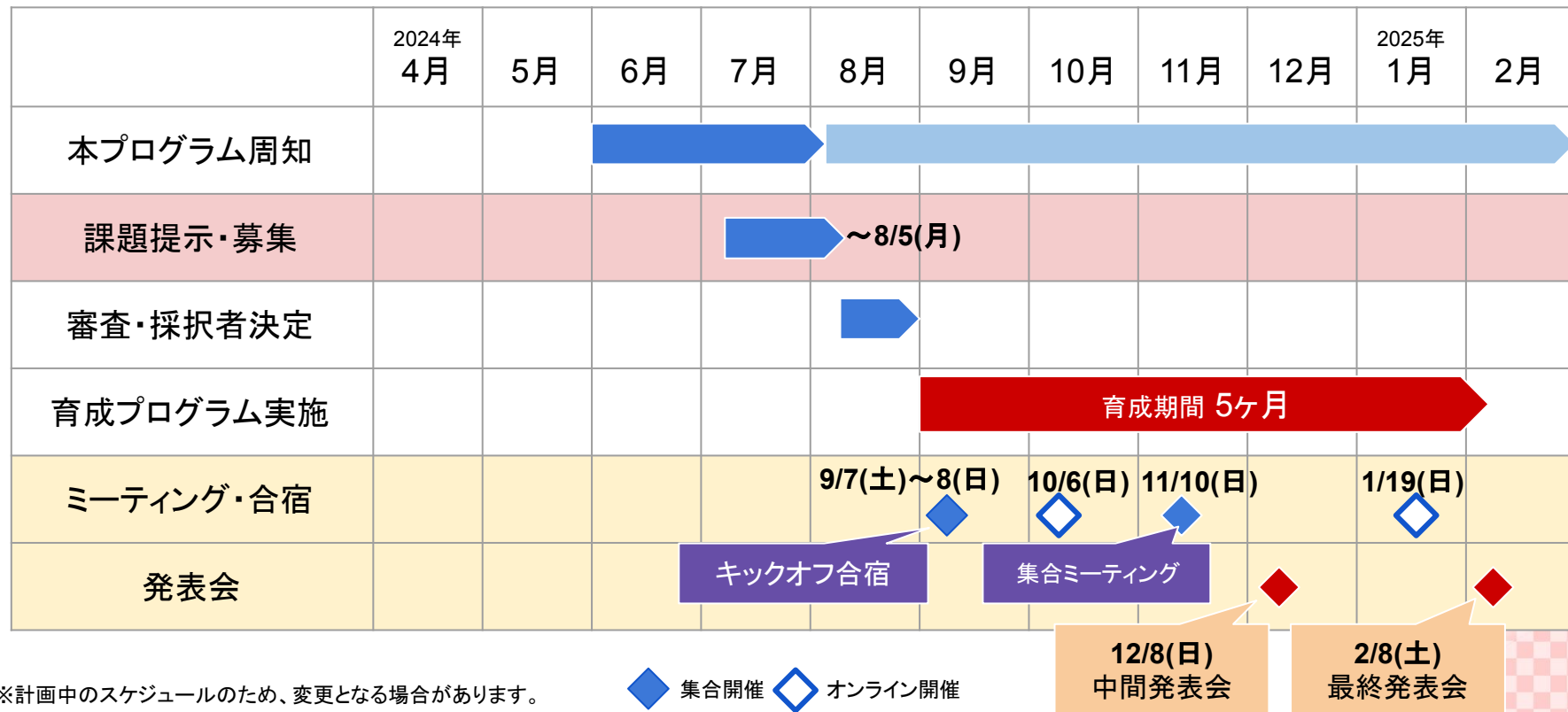
参加者への提供

- ICT開発／ハッカソン／課題解決への豊富な指導経験をもつPMたち、先輩的存在の他プログラム修了生をメンターとして、活動へ伴走しながらの指導・支援を提供
- 制作活動のための支援金を提供(30万円/チーム)
- 修了後には、修了生や関係者たちとの修了生ネットワークに参加、他プログラムへの参加や起業等の次のチャレンジも支援

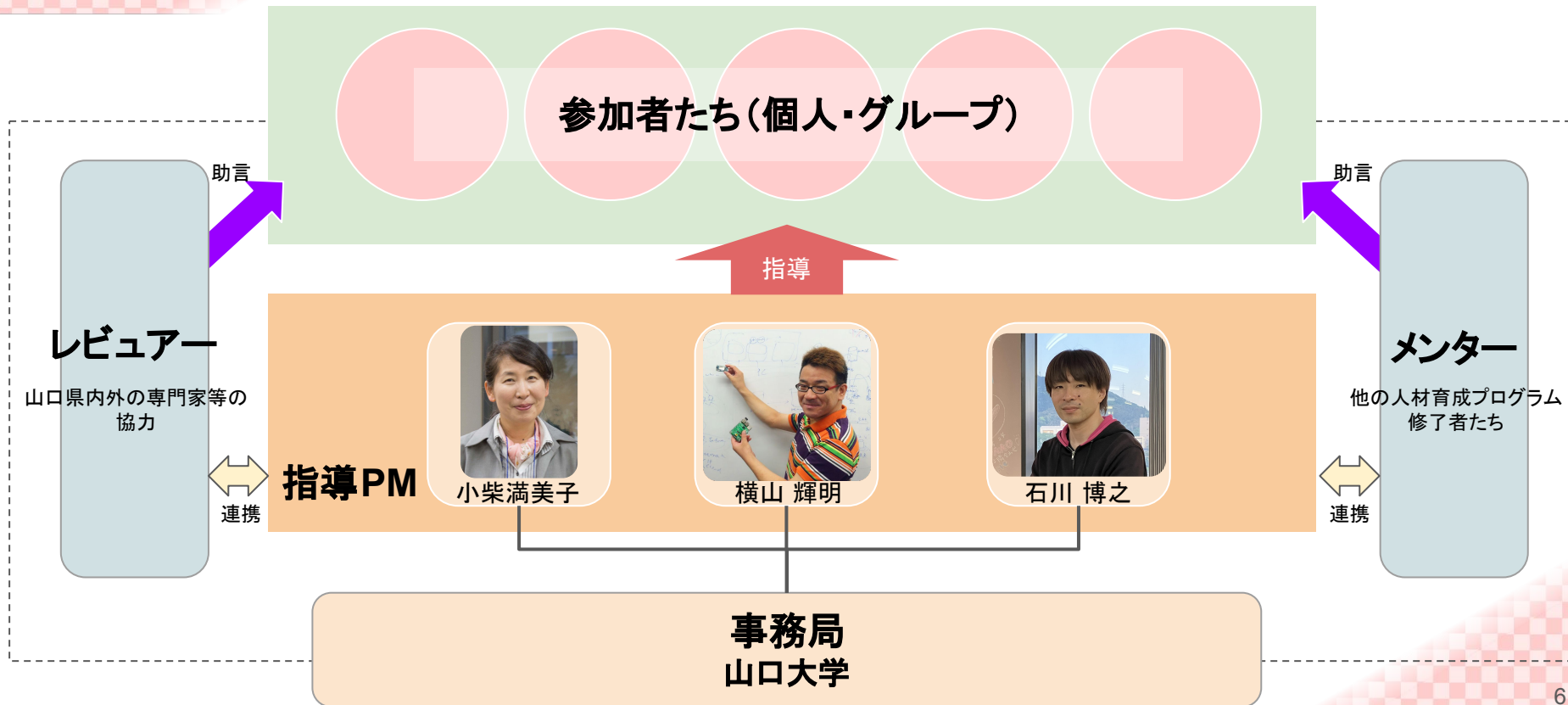
【活動内容】

- 月に1回のイベント(集合、オンライン)を実施して、活動や制作物の内容を持ち寄り発表、情報共有や指導などレビューを得る
- オンラインにて制作活動を継続、コミュニケーションや議論、助言など
- 2月の発表会で出来上がったものを持ち寄り発表する

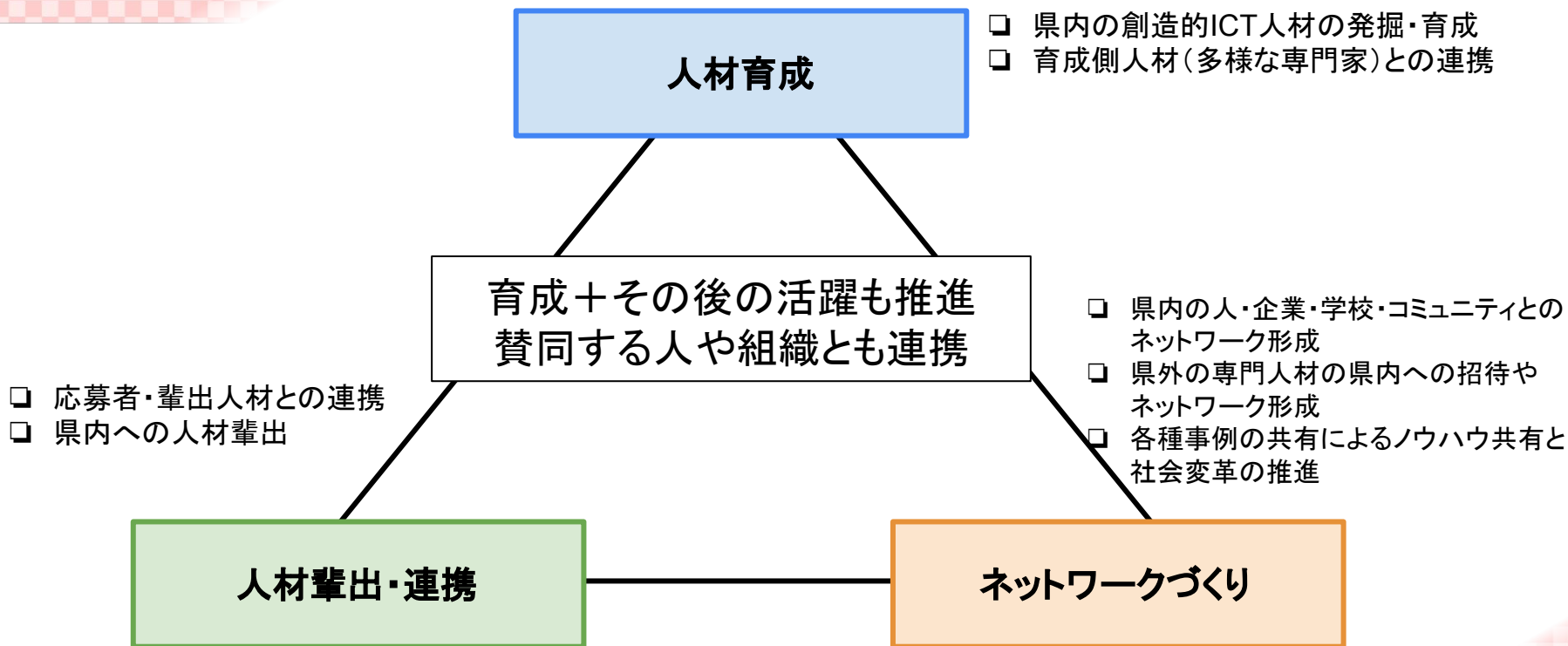
育成計画及びスケジュール



指導体制



みなさんと社会連携



本プログラムを通して、山口県を中心にした**社会変革の基盤づくり**を実現！

みなさまへのメッセージ

ひきつづきのご支援、よろしくお願いいたします！

- 見学等も継続して実施します
- 合流参加も歓迎します
- レビューアー協力もぜひお願いします
- 協賛やご支援もお待ちしています

今年度は2月8日の発表会まで活動を継続します
関心がある方、関心を持ちそうな方への周知宣伝も
よろしくお願いいたします

山口未来変革デジタル人材 発掘・育成プログラム
PM・運営 一同

企業や行政の方へのメッセージ

連携についてもご相談させてください

- 見学や情報交換など
- 課題の持ち込み、連携しての協創
- 輩出人材の受け入れ
- 協賛やご支援もお待ちしています

今年から立ち上げて、何をどう進めるかもまだまだ検討中の段階です。みなさまからの期待や要望、連携のアイデアなどを教えていただけるとありがたく思います。情報交換なども歓迎ですので、お気軽にご連絡ください。

山口未来変革デジタル人材 発掘・育成プログラム 運営
contact@yamaguchi-henkaku.jp

【参考資料】プログラム 2024年度参加者

応募者(山口県内)

- 21名 応募、18名 合格
- 個人 4名、チーム 5件(2名、2名、2名、3名、5名)

組織

山口大学 工学部 8名、徳山高専 2名、宇部高専 2名
山口大学 経済学部 2名、山口大学 教職大学院 2名、
社会人 2名

年齢

18歳 x 1名、19歳 x 2名、20歳 x 6名、21歳 x 3名、22歳 x 3名、
25歳、30歳、31歳 (2024年4月1日時点)

男女比

男 9名、女 7名

【参考資料】今後の予定

2024年12月8日(日) 中間発表会 @準備中(山口市?)

- 参加者たちが取り組むテーマ、活動について発表
- デジタル人材の活躍・活用についての講演など予定

2025年2月8日(土) 最終発表会 @準備中(宇部市?)

- 参加者たちの制作物についての発表
- デジタル人材の活躍・活用についての講演など予定

見学参加も歓迎ですので、ご連絡もどうぞ。
こちらから案内も差し上げます。

【参考資料】山口未来変革デジタル人材 発掘・育成プログラム概要

目的

山口県における「社会を変える創造力と行動力を持つ人材」の発掘・育成と、これらの活躍を軸とした県内ネットワークを構築する

概要

- 「作りたいもの」や「課題の解決」につなげるものを作る、長期ハッカソン。
- アジャイル型開発を実践することで、アイデアを形にする技術力や、作ったものを見せる表現力、レビューを受けながら探索的に価値創造や課題解決につなげる方法を身につける。
- 採択者には、活動を行うための支援金を提供する。（30万円/チームを予定）
- 本プログラムの実施内容への見学参加も歓迎して、将来の応募者や賛同者を集めて、活動推進の気運醸成にもつなげる。

対象者

山口県内に居住・勤務・在学する 15歳から39歳まで、個人／チームで参加

実施体制

山口大学を中心に、県内外の産官学民の協力体制により実施

実施体制

公式Webページ

<https://yamaguchi-henkaku.jp/>

<https://yamaguchi-henkaku.jp/supporters/introduction/>

学生有志たちによる紹介 Webページも立ち上がっています！

連絡先

contact@yamaguchi-henkaku.jp

【参考資料】IPA「未踏事業」とAKATSUKIプロジェクトについて

未踏事業から見る本事業の位置づけ

- 本事業は日本全体でのイノベーションエコシステム拡大のため、各地域で前人未至の分野を切り開く、突出したIT技術やアイデアを有する若手人材の発掘と、各地域でメンターの伴走支援を通じた育成を行う事業である



IPA「未踏事業」

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/index.html>



AKATSUKIプロジェクト 公式サイト

<https://mitouteki.jp/>



未踏事業	
目的 特徴 人材像	<div>日本 全国版</div> <p>IPAが中心となり、日本全国から 新たな価値を創造するIT人材を育む</p> <p>「ITを駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデアと技術を有するとともに、これらを活用する優れた能力を持つ、突出した人材を発掘・育成」¹⁾</p> <p>①日本を代表する各分野で活躍するPMが帯同 ②2000人以上の未踏修了生のコミュニティ ・2000年以降23年間続く歴史ある事業</p> <p>未踏なアイデアを育てたい</p> <p>「独自性・革新性があり、社会的インパクトを与え、イノベーションを創出する可能性を秘めたプロジェクト実現しようとしている若い逸材」²⁾ (未踏IT)</p> <p>・アイデアがある ・技術がある ・情熱がある</p>
	<div>地方 地域版</div> <p>地方・地域コンソーシアムから 新たな価値を創造するIT人材・起業家を育む</p> <p>未踏事業の人材発掘・育成プログラムを全国各地においても広く展開し、地域における若手人材の自律的・継続的な育成活動の面的拡大を目指す</p> <p>①各地域ごとに異なる支援メニューを用意 ・2023年度地域横断も含め26事業者採択 ②地域貢献・活性/地域から社会→世界へ</p> <p>地方発の未踏的なアイデアで 課題解決にも取り組みたい</p> <p>左記の未踏性を有するほか、地域や特定のコミュニティに対する貢献（課題解決、起業等）マインドを有する者</p>
	<p>地方発の未踏的なアイデアで課題解決にも取り組みたい</p> <p>左記の未踏性を有するほか、地域や特定のコミュニティに対する貢献（課題解決、起業等）マインドを有する者</p>

¹⁾出典：IPA、「未踏事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/about.html>（参照2024-02-29）

²⁾出典：IPA、「未踏IT人材発掘・育成事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/it/about.html>（参照2024-02-29）

【参考資料】用語・キーワード

ハッカソン

IT技術者等がチームを組み、与えられたテーマに対して定められた期間に集中的にソフトウェアやサービス等を開発するイベント
プログラムの改良を意味するハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語
本プログラムではハッカソンの手法を長期に渡り複数回繰り返しながら実践し、成果物の制作に取り組んで行く予定としている

アジャイル

ソフトウェアの開発手法の1つで、『計画→設計→実装→テスト』といった開発工程を、機能単位の小さいサイクル(イテレーション)で繰り返しながら完成に向けて進捗していく手法
※agile=素早い、機敏な、頭の回転が速いという意味